

共通科目「比較思想」丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業

教養としての政治思想——西洋と日本

荻部 直

二〇〇九年度の、本センター主催による公開授業「比較思想」は、「教養としての政治思想——西洋と日本」と題し、前期（四月一〇日～七月一七日）に、毎週一回、一時限（九〇分）を費やして行なった。開講に際し、一般受講者にもけて示した「授業概要」は、以下のようなものである。

「リベラル・アーツという言葉の由来をご存知だろうか。もともとそれは、西洋の思想伝統のなかで、みずからものを考え行動する、自由な市民を育てる課程と考えられていた。実践とは無縁の知的遊戯や、専門科目を学ぶための準備では、決してなかったのである。

『自由』とは何か。人はいかなる意味で『平等』と言えるのか。政府が暴虐を行なうとき、どう対処すればいいのか。そもそも『政治』とはどんな営みなのか。……こういった問いは、西洋の政治思想の歴史において、常にくりかえされている。形が大きく違うとはいえ、日

本 of 思想伝統にも、これと類似した営みがないわけではない。

この授業では、自由・権力・平和・ナショナリズムといった中心主題に即して、日本と西洋とを比べながら、『政治』という現象についてのどのように考えたらいいか、その道具になるような思想のあれこれを紹介してみたい。」

さまざまな職業や人生経験をへた一般受講者が集まること、大学の正規科目としての履修者には一・二年生が多いことが予想されること、「現代教養学部」がこの年度に発足することを念頭において考えた授業方針である。具体的には、あらかじめ詳細な授業日程を計画することや、その代わりに、毎回、参加者にコメント・カード（A6判）を配布して授業の感想や質問を書いてもらい、それに応える形で次の内容を考え、次回の冒頭ではコメントに対する回答から話を始める、という方針をとった。

したがって、開講にあたって漠然と予想していた話の進行からすれば、非常に遅い授業進度となり、事前に考えていた内容の半分以下しか、結果としては話すことができなかった。しかし、受講者の理解をたしかめながら、個々の議論を深める形で授業をすすめることができただので、よかったと思っっている。結果として、全一四回の内容はこうなった。

- 1 「リベラル・アーツ」と「政治的教養」
- 2 「政治」のイメージ
- 3 デモクラシー——「戦後民主主義」とは何か
- 4 政治・道徳・自由
- 5 「自由」と徳川思想
- 6 日本の知識人と「自由」との出会い
- 7 「自由」の強制について
- 8 「自由」観の相剋
- 9 リベラリズムとデモクラシー
- 10 「自由」と「文明」
- 11 ナショナリズムをめぐって
- 12 戦後日本の平和主義をめぐって
- 13 理想主義と現実主義——丸山眞男・福田恆存の論争から
- 14 「政治的判断」とは何か

講義にあたっては、なるべく史料を配布し、思想家の言葉に受講者自身がふれ、微妙なニュアンスまでも含めながら理解できるように努めた。受講者の数は、一般参加者と学生がそれぞれ三〇名ほど。こぢんまりした規模で、ゼミナールのように応答をはさみながら進められたので、むしろ適切な人数だったと思う。

ただ反省点としては、講師と受講者との対話はある程度できたのだが、受講者どうしがおたがいに議論するような空気にはできなかった。この点、せっかく一般参加者と学生とがいる教室なのだから、その間に意見交換ができるような工夫をすれば、大学教育のあり方としても、より効果的なものになったはずである。

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター 公開授業
2009年度 受講者募集のご案内

東京女子大学では、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる科目として「比較思想」「総合講座・比較思想」の2科目（半期完結）を設置しております。この科目は丸山眞男記念比較思想研究センターの企画により開講するものですが、2009年度は、前期に「比較思想」を開講し、学部学生とともに学外の方々にも公開いたします。下記の要領にて受講者を募集いたしますので、ご案内いたします。なお、今年度後期の募集はありません。

○ 科目名：「比較思想」 **教養としての政治思想—西洋と日本**

○ 講師：苅部 直（東京大学教授）

○ 授業概要

リベラル・アーツという言葉の由来をご存知だろうか。もともとそれは、西洋の思想伝統のなかで、みずからものを考え行動する、自由な市民を育てる課程と考えられていた。実践とは無縁の知的遊戯や、専門科目を学ぶための準備では、決してなかったのである。

「自由」とは何か。人はいかなる意味で「平等」と言えるのか。政府が暴虐を行なうとき、どう対処すればいいのか。そもそも「政治」とはどんな営みなのか。……こういった問いは、西洋の政治思想の歴史において、常にくりかえされている。形が大きく違うとはいえ、日本の思想伝統にも、これと類似した営みがないわけではない。

この授業では、自由・権力・平和・ナショナリズムといった中心主題に即して、日本と西洋とを比べながら、「政治」という現象についてどのように考えたらいいのか、その道具になるような思想のあれこれを紹介してみたい。

期 間 2009年4月10日～7月17日（5/1は授業なし・全14回）

時 間 毎週 金曜日 2時限目（10：55～12：25）

会 場 東京女子大学（教室は当日正門付近の掲示板でご案内します）

対 象 原則として18歳以上の男女

定 員 30名

受講料 10,000円

テキスト代等を含みません。なお、一度納入された費用は返却いたしませんので、ご了承ください。

【申込方法】 下記の申込用紙にご記入のうえ、2月27日（金）までに教育研究支援課宛にご郵送ください（必着）。

【結果通知】 3月中旬までに結果通知はがきをお送りいたします。申し込み多数の場合は、抽選の上受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

【受講手続】 受講を認められた方は、授業初日に受講料 10,000 円と結果通知はがきを会場にお持ちください。引き換えに受講証をお渡しいたします。

【ホームページ】 <http://office.twcu.ac.jp/facilities/maruyama.html>

【その他】 授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おき下さい。

| |
|--|
| 送付・問合せ先： 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1 東京女子大学 教育研究支援課「公開授業」係 TEL: 03-5382-6454 月～金・9時～17時（11:25～12:25を除く） |
|--|

下記にご記入いただいた個人情報は、当該公開授業の運営および当センターの行事案内送付のために利用いたします。

-----キリトリ-----

2009 年度 丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業 受講申込書

| | | | | | |
|-------------|---|----|--|----|-----|
| ふりがな 氏 名 | | 年齢 | | 性別 | 男・女 |
| 住 所 | 〒 | | | | |
| 電話番号 | | | | | |
| 受 講 の 動 機 | | | | | |
| | | | | | |

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター